



Learning is So Good!

～学べるってすばらしい！もう一度考え直そう 学びの意義～

香川県立三本松高等学校 担当教科：英語科

森 枝里子

◆実践教科：英語 ◆時間数：4時間 ◆対象学年：高校1年生 ◆対象人数：105名(3クラス普通科)各クラス35名

カリキュラム

◆実践の目的

今回の実践目的について、大きく次の3点が挙げられる。

- ①学びの意義について考え直す。
- ②ネパールと日本との比較から、多様性を受容し、共通性を発見する姿勢を身につける。
- ③国際社会に生きる一員として、自分たちにできることを考え、それを行動にうつす。

特に、今回は①に重きをおいて、授業計画を立てた。

ココがすばらしい！

・日本との違いや共通点について、英語を通して考えさせているところが新鮮
 ・ネパールに行く前から生徒とともにネパールの子供たちへのカード作りなどを行い、生徒にネパールを意識づけるとともに、実践授業では生徒の興味をそめる小道具(カード、お香、音楽など)を多用した工夫あふれる授業づくりを行った。
 ・ネパールのネガティブなイメージだけでなく、ポジティブなイメージも伝えられたのが良かった。

現在、非識字率の人口は8億6千万人以上といわれている。読み書きができないということがどういふことなのか、日本という恵まれた環境で生きている私たちには想像しにくいこともかもしれない。

生徒たちの「学び」への姿勢に対しても、日々疑問を持つことがある。「なぜ学んでいるのか？」そう尋ねると、おそらく多くの生徒から、「テストでいい点を取る(もしくは欠点をとらない)ため」や「親や先生に叱られるから」という答えが返ってくるのではないだろうか。そのような彼らからは、「できれば勉強したくない」という気持ちが見受けられる。「学び」とは何なのか、もう一度生徒たちに考えさせ、「学ぶ(学べる)」ことは素晴らしいことなのだという、「学びへの喜び」を育むことができるよう指導していきたいという思いから、この研修に参加させて頂いた。

今年度、高校1年生の普通科クラスの英語の授業を担当しており、扱っている教科書New Edition Unicorn English Course I(文英堂)のLesson 4で”Life is So Good!”という識字率をテーマにしたトピックを扱った。このLessonに出てくるアメリカ・テキサス州生まれのアフリカ系アメリカ人のGeorge Dawson氏は、人種差別などの影響で、98歳にして初めて読み書きを学び始める。

読み書きができないころ、駅で買った切符が本当に合っているかどうか確認できなかつたり、レストランでメニューを読めなかつたり署名ができなかつたりと様々な苦難に遭遇してきた。また、南アジアが世界の非識字者の半数近くを占めており、ネパールへの海外研修と、このLessonとを関連付け、「読み書きができる、そして学ぶことができるということは決して当り前のことではない」ということを生徒たちに気づかせ、それを通して、「学ぶことができる」という喜びを持って、学習に取り組んでほしいという思いで、今回の授業を計画した。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	<p>“If the World were a Village of 35 People …”</p> <p>体験を通して「文字が読めない」ということの恐ろしさや危険性について考え、読み書きできる(勉強できる)ことへの感謝の念を持つ</p>	<p>(1)オリジナル「世界がもし35人の村だったら」を行う</p> <p>(2)グループで話し合い</p> <p>①グループになり「文字が読めない(書けない)」ということとはどんな時に困るのか」を話し合う</p> <p>②グループごとに発表する</p> <p>(3)本時の感想を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルカード ・飴 ・水(ペットボトル) ・ネパール語の書かれた紙 ・ワークシート
	<p>“Life is So Good!”</p> <p>98歳にして初めて読み書きを習い始めたGeorgeの学習に対する姿勢を通して、学びの意義を考え直す</p>	<p>英語Iで扱っている教科書、Unicorn English Course IのLesson 4である”Life is So Good!”を学習する(1カ月程度)</p>	

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
2	“Learning is So Good!” 自分たちの「学び」への姿勢を見直し、その意義を考え直す	(1)「世界のこんにちは」でグループ分け (2)「手を挙げているネパールの子どもたち」の写真を見てなぜ手を挙げているところか考える (3)事前アンケートの結果発表 (4)Nepal Quiz (2つ) 英文を読み、先程見せた写真の質問の答えを見つける (5)“Picture” Language ①グループごとに、ネパールのある学校の子どもたちが描いてくれた「Picture (=絵)」を1つ選びそれについて読みとる ②グループごとに発表 (6)本時の感想を書く ※ネパールのお香をたき音楽をかけておく	・くじ ・写真 ・ネパール語の書かれた紙 ・ポスター (事前アンケートの結果) ・封筒&クイズが書かれた紙 ・ワークシート ・絵 (ネパールの子どもたちが描いたもの) ・お香 ・CD (ネパールの音楽)
3	英作文の紹介 友達の優れた英作文を読み考える	(1)“Life is So Good!”を学習後に「読み書きができない人が世界では8億6千万人以上いるという事実に対して自分たちはどうすべきか」という英作文を書かせ、その中で特に優れているもの(17作文)を読む (2)その中で感じたことをまとめる	・ワークシート
4	“Is it Common or Different?” ①日本とネパールの比較により世界における文化や慣習の多様性を理解・認識するとともに共通点を見出させる ②国際社会に生きる一員として自分たちにできることを考えさせる	(1)「世界のありがとう」でグループ分け (2)事前アンケートの結果 (3)True or False? カードに書かれた英文はTrue(=真実)かFalse(=嘘)かグループごとに分類する (4)写真を見ながら答えを確認する (5)「共通点」の発見 ネパールの子どもたちの写真を見てネパールと日本の共通点を見つけ出す (6)英作文の紹介 (5)Group Discussion 「国際理解において大切なこと」と「私たちにできること」をグループで考える	・くじ ・ポスター ・カード ・写真 ・ワークシート ・ハンドアウト (英作文の抜粋)

授業の詳細

1 時限目

If the World were a Village of 35 People
～「もし世界が35人の村だったら」
身近に考えよう!世界の識字率問題を～

学習活動	
導入	(1) カードの配布 Secret Informationが書かれたカードを1人1枚、無作為に配布 (2) 仲間探し カードに書かれている挨拶のことばを叫びながら、仲間を見つけて、グループを作ってもらおう (3) 分かれた5つのグループは、それぞれ大陸によって分けられていることを伝える ①アジア：21人 ②アフリカ：5人 ③ヨーロッパ：4人 ④南アメリカ：3人 ⑤北アメリカ：2人

学習活動

展 開	<p>(1)「ハート ハンノス」と書かれたネパール語の提示(ハート ハンノス=拍手をして下さい) 自分のカードに、この情報が書かれておらず、周りの人たちがしている拍手に対して、理解ができない人もいる</p> <p>(2)Candy ? or Poison ? ①2つの入れ物に入れられたキャンディを提示する：1つには、「チャクレト」、もう1つには「ビス」とネパール語で書かれている(チャクレト=Candy、ビス=Poison(毒)) ②この情報が書かれていないカードを持っている生徒を指名し、どちらか選ばせる ③次に、書かれている文字について分かる生徒を指名し、どちらか選ばせ、理由を述べさせる</p> <p>(3)How much is the water?(タパイ ライ ケ チャイヨ =欲しいものは何ですか?) ①2本のペットボトルの水を提示する：1つには、「4000」、もう1つには「8000」とネパール語の数字が書かれている ※この2本の水は全く同じであり、ここに書かれているものは値段であり、お店に売られているという設定であることを伝える ②この情報が書かれていないカードを持っている生徒を指名し、どちらか選ばせる ③書かれている文字について分かる生徒を指名し、どちらか選ばせて、理由を述べさせる</p> <p>(4)グループで話し合い ①グループになり、「文字が読めない(書けない)」ということで困るのは、どんな時か」を話し合わせる ②グループごとに発表させる</p>
	ま と め



↑ 仲間探しをしている様子 ↑



↑ オリジナルカード

生徒の反応

- ・世界をクラスに置き換えてみると、身近に感じる事ができた。
- ・実際に活動をすると、ただ説明を聞くよりも伝わってくるものがある。「自分たちの当たり前」は、世界では違うということが分かった。
- ・こんなにも文字が大切なんて思わなかった。私たちは「文字が書ける・読める」ということに感謝しなければならないと思った。
- ・とても恵まれた中で生活しているというのに、そういうことを意識せずに文句を言っている私たちは情けないと思った。
- ・文字が読める人と読めない人がいれば、読めない人に読める人が教えてあげれば良いと思った。
- ・今、何不自由なく勉強できる私たちだからこそ、何かできる、何とかしなければいけない問題だと思う。

〈所 感〉

開発教育協会制作の「新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」を参考に、世界を35人の村に置き換えて、オリジナルのカードを作成して実践した。「文字が読める」という、彼らにとって「当たり前」のことがそうではなくなった時、受ける衝撃は大きいものであったようである。体験を通して、読み書きできることへの感謝の気持ちを持つと共に、世界中に読み書きできない人々が多く存在するという現状に対して、同じ地球人として、何とかしなければならないという気持ちになった生徒たちも多く見受けられた。

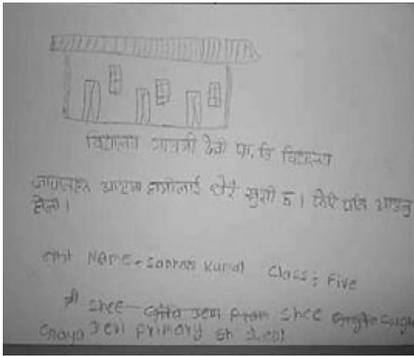
2時限目

“Learning is So Good!” ～「学べる」ってすばらしい!!

もう一度考え直そう「学び」の意義～

学習活動	
導 入	<p>(1)「世界のこんにちは」でグループ分け 世界のある国々の「こんにちは」が書かれているくじを引き、その言葉を発しながら、グループに分かれる</p> <p>様々な言語で「こんにちは」が書かれた紙を用いて、グループ分けを行ったり、簡単なネパール語を紹介したりしたことで、英語以外の外国語に慣れ親しんでもらうことができたように思う</p>
展 開	<p>(1)「手を挙げているネパールの子どもたち」の写真の提示 ①これは私がある質問をしたときに、その答えがYes!の人が手を挙げていることを伝え、その質問とは何かを考えさせる ※ネパール語で書かれたその質問を見せる ②グループごとに考えさせ、発表させる (※答えはあえて、ここで明かさない)</p> <p>(2)事前アンケートの結果発表 ネパール研修前に、生徒たちにとってアンケートの結果をポスターで発表する ①学校は好きか? ②勉強は好きか?</p> <p>(3)Nepal Quiz 1(英文を読み、先程見せた写真の質問の答えを見つける) 封筒の中にある紙に書かれた英文を読み、(1)の質問の答えを見つけ出させる(答えは「勉強が好きな人!」)</p> <p>封筒に入っている英文を意欲的に読んでいる生徒たちが多く見られた。生徒たちに「知りたい!」と思わせる設問は、彼らの知的好奇心を刺激し、学習意欲を高めることができるのだと感じた</p> <p>(4)あなたの趣味は何ですか? ①「タパイ コ ソーク ケ ホ? (=あなたの趣味は何ですか?)」と書かれたネパール語の提示 ②「メロ ソーク ~ ホ (=私の趣味は~です)」という答え方を教え、何人かの生徒に質問し、答えさせる ③先程見せた写真の子どもたちに、この質問をした時、どのような答えが返ってきたか考えさせる ④子どもたちの回答は、「パルヌ! (=勉強する)」が圧倒的に多かったことを伝える</p> <p>(5)あなたの欲しいものは何ですか? ①「タパイ ライ ケ チャイヨ? (=欲しいものは何ですか?)」と書かれたネパール語の提示 ②日本の生徒たちに、事前にとったアンケートの中の「いま欲しいものは何ですか?」という質問に対する回答を発表(多数回答: ゲーム機器、服、お金等) ③先程見せた写真の子どもたちに同じ質問をした時、どのような回答が返ってきたか考えさせ、ネパール語で書かれた、ネパールの子どもたちの回答を見せる ④Nepal Quiz 2(英文を読み、質問の答えを見つける) 封筒の中にある紙に書かれた英文を読み、「子どもたちのほしいもの」を見つけ出させる (答えは、本、ノート、鉛筆)※すべてが「勉強」に関するものであることを留意させるよう呼びかける</p> <p>(6)“Picture” Language ①グループごとに、ネパールで訪問したある学校の子どもたちが描いてくれた絵を1つ選び、それについて読みとらせる ②グループごとに発表させる</p>
ま と め	<p>本時の感想を書かせる ワークシートに本時の感想を書かせる ※回収し、後日感想の中からいくつかをみんなの前で発表する</p>

▼“Picture Language” に使用した絵▼



↑学校の絵と、私たちが訪問したことの喜びがネパール語で描かれている



↑花や鳥などの絵と、貧しいけれども勉強したいという意味のネパール語が描かれている



↑教師と女優の絵で、将来の「夢」が表されている



↑ 授業風景 ↑



↑“Picture Language” に取り組んでいる様子

生徒の反応

★授業を通して

- ・子どもが、絵で勉強や夢について描くとは思いませんでした。
- ・ネパールの人たちは、毎日を楽しみながら過ごしているのがとても素敵なことだなと思った。
- ・私たちは、勉強を「させられている」、「しなければならぬ」だけれども、ネパールの子供たちは、勉強を「できる」、「したい」だから、そういうところを見習わなければならないと思った。
- ・ネパールの子供たちの欲しいものが、私たちのように贅沢なものではなくて、鉛筆やノートなど、勉強のものであることを知り、自分が恥ずかしくなった。
- ・日々の授業を大切にしようと思った。
- ・これからはいやだと思わずに、嫌いな教科も好きになろう！と思いたいです。
- ・自分も、ネパールの子供たちのように、もっと勉強にしっかり向き合おうと思う。したくてもできない子の分までしっかりやろう。
- ・ネパールの子供たちは、夢を持っている。自分たちよりも恵まれていない環境なのに、目標をしっかりと持つ子供たちを見習いたい。

★何のために学ぶのだろう？（学びの意義とは？）

- ・生きていくため。
- ・力をたくわえ、それを世間のために生かすため。
- ・新しいことを学べる楽しさを味わうため。
- ・「学ぶ」とは、自分を高めると共に、自他の幸せに大きく貢献するものであり、人間の本性である。
- ・自分の国だけで意見を言うのではなく、他の国の状況を知った上で意見を言うため。

〈所 感〉

自分たちよりも年齢の若い子どもたちが、夢を持って意欲的かつ能動的に勉強に取り組んでいる姿を通して、生徒たちは自分自身の学習への姿勢を見つめ直すことができたようである。

事前アンケートでは、「周囲に言われるから」や「何のために学んでいるのか分からない」という意見もあったが、学びの意義を改めて考え直し、勉強に対して真剣に向き合おうと決意を新たにすることが見られた。

また、ネパールのお香を焚き、ネパールの音楽をかけて授業を始めたことで、嗅覚や聴覚にうったえるものとなった。クルタというネパールの民族衣装を着たことも好評であった。

3時限目 英作文の紹介

世界に8億6千万人以上もの読み書きできない人々がいるという事実に対しての意見や、私たちがすべきことについて書かれた英作文の中から、特に優れたものを17作品選び、まとめられたものを読む。

<生徒の英作文の中から>

- ・ We must not forget people who cannot read and write. I cannot feel that it is no concern of mine, because we are same humans living in the world.
- ・ We should be grateful for being able to read and write.
- ・ We should study hard for poor people.

<所感>

私たちが、できて「当然」と思っている読み書き。しかし、世界には8億6千万人以上もの人々が、その「当然」のことができない。その事実を他人事ではなく、自分たちの問題としてとらえて考えている様子が、英作文を通して分かった。生徒たちは、書かれている英作文を真剣に読んでいた。友達の優れた作品は、彼らにとってとてもいい刺激となった。

4時限目

“Is it Common or Different?” ~The Discovery of Something “Different” and “Common”

学習活動	
導入	(1)「世界のありがとう」でグループ分け
展開	<p>(1)事前アンケートの結果 事前にとったアンケート(①ネパールについて知っているか?②ネパールについて知っていること)についての結果を発表する</p> <p>(2)True or False? ①カードに書かれた英文は、True(=真実)かFalse(=嘘)かグループごとに考えさせ、分類させる ②いくつかのグループに発表させる ③写真を見せながら、正解発表 ※「私たちの当たり前≠世界の当たり前」に留意させる</p> <p>(3)「共通点」の発見 ①ネパールの子もたちの様子の写真を見せ、ネパールと日本の共通点を見つけ出させる ②グループごとに、発表させる ※国際理解において、「相違点」のみならず、「共通点」にも目を向けることの大切さを留意させる このとき、事前アンケートでとった「国際理解と聞いてイメージすること」の結果を発表したが、その生徒の回答から、彼らが「国際理解」を「難しそう」や「広大なもの」ととらえていることが分かるが、差異だけでなく、「人間だれしも共通すること」に目を向けることの大切さを教える</p> <p>(4)Group Discussion ~「国際理解において大切なこと」と「私たちにできること」~ ①(3)の子もたちの写真や(4)の英作文を参考にして、「国際理解において大切なこと」と「私たちにできること」の2点をグループで考えさせる ②グループごとに発表させる</p>
まとめ	<p>本時の感想を書かせる ワークシートに本時の感想を書かせる ※回収し、後日感想の中でよいものをみんなの前で発表する</p>



↑ “True or False?” Cards



↑ “True or False?”に取り組んでいる様子



↑ 共通点を見つけ出させる写真

生徒の反応

★国際理解において大切なことは？

- ・笑顔(スマイル)!
- ・相手のことをもっと知ろう、そして好きになろうとする気持ち。
- ・共通点を見つけようとする。
- ・生活習慣が違って、喜怒哀楽という基本的な感情は同じなので、そこをよく理解しようとする。
- ・生活水準が低いからと言って、一方的にかわいそうだと思うのは違うと思う。写真の子どもたちは、笑顔で楽しそうだった。

★「国際理解」に対するイメージの変化

- ・「国際理解」と聞いて、ややこしそうだと思っていたけれど、それは互いの違いを認め、同じところもあるのだということを知ることだと思う。
- ・とても難しいものだと思っていたけれど、自分たちにもできると思った。
- ・自分には関係ないと思っていたけれど、とても身近なものに感じた。

★私たちにできることって？

- ・今の生活を当たり前だと思わずに、感謝の気持ちを持って、毎日を一生懸命生きる。
- ・たくさんの国のことを勉強し、文化や生活を深く理解し、そこで得たものを必要な時に活用する。
- ・共通点を見つけようとする。
- ・英語を頑張る。
- ・できる範囲で、募金に協力する。

〈所 感〉

True or Falseの時に、水道水や交通事情の問題などネパールの開発途上の様子を紹介したが、共通点発見の時に、そのような環境でもたくましく生きるネパールの子どもたちの笑顔の写真を見せた。対照的な写真を提示することで、物質的に豊かでないことが必ずしも不幸というわけではないと感じ取った様子であった。

また、事前アンケートでは、「国際理解」を「難しそう」や「壮大なもの」というようにとらえていた生徒たちも、「身近」で「自分たちにもできる」とこと考えるようになったということが、今回の大きな収穫と言えるだろう。彼らにとっての「遠い」を、少しでも「近い」ものにできたのではないだろうか。

成果と課題 (全体を通して)

現地に行く前に、研修の目的を明確にすることで、研修を有意義なものにすることができた。私の場合は、「学びの意義の再発見」であり、それを念頭に置いた情報収集を研修中終始行った。

また、渡航前に行ってよかった2つのことがある。1点は、日本の生徒たちにアンケートをとったことである。①ネパールについて、②勉強について、③国際理解について、という大きく3つのことについて調査した。

研修後の授業で、どのように生徒たちが変化していくかを計るよい指針となった。

もう1点は、生徒たちにネパールの子どもたちへのメッセージカードを作成してもらったことである。色画用紙や折り紙などを用い、英語で日本文化について紹介してもらった。研修で訪れた様々な学校で子どもたちに渡し、喜んでもらった。

帰国後、その時の写真を教室に掲示し、自分たちが作ったものがネパールの子どもたちに届いたということを伝えた。

日本を表す形容詞としてよく、「パラダイス鎖国」という言葉が挙げられる。日本という国が物質的に豊かであり、そこでの居心地があまりにもよいために、人々の目が内側にのみ向いてしまっている状態のことである。生徒の中にも、世界で起きている問題は、自分たちとは関係ないと考えてしまっている人が多くいる。そのような状況の中で、彼らが世界へ関心を持つようになる「きっかけ」になりたいというのが、この研修のもう一つの目的であった。生徒にとって、教師という彼らの身近な存在が、このような経験をしたということで、世界のことを以前より身近に考えるようになった。彼らと世界を結ぶ「架け橋」に、少しでもなれたのではないだろうか。